

## 12 みんなのために

和子の住むA市では、家庭から出るごみを清掃車せいそうしゃで週二回集めることになっている。

そこで、近くの家が五、六軒けんずつ一定の場所にごみを集めて清掃車に積みこむことにしている。

ところが、不心得ふこころえな人がいて、月曜、木曜の二日と決められているのに、土曜日にごみを置いていたり、集められたすぐあとに出したりするため、いつでもごみが積み上げられていることが多かった。

時には、犬やねこが袋ふくろを破やぶつて、そのあたりがよごれてしまうこともあった。和子の家の近くのごみ集めの場所は、ちょうど空地になっているので、あまり近所にはめいわくは感じられなかったが、夏など長く置かれたごみからいやなにおいがして、その近くは息をとめて早く通り過すぎる人が多かった。

しかし、最近になって、その空地に家が建てられることになり、工事はじめられた。

家が完成すれば、今までごみ集めの場所だった所はげんかんになるので、どこかに移うつさなければならなくなった。

近所の人たちが集まって相談をするのだが、ごみのいやなおいや、道路のよごれ方を考えると、だれも自分の近くに移そうという人はなかった。

「困こまった。困こまった。どうしたらいいのか。」

意見はいつもどうどうめぐりで、結論けつろんは出なかった。

そうしているうちに、家はどんどん完成に近づいていった。

「新しく来た人が、どけてくださいといったら、ごみ集めの場所を変えなければいけない。」

だれもがわかっていることではあるが、だれひとりとして自分からそのめん

どうなことを引き受けようとする者はいなかった。

やがて、家が完成し、杉沢さんすぎさわという人が引越ひっこししてきた。

近所の人たちは、さつそく集まって、杉沢さん夫妻ふさいを囲んで相談をした。

今まで、杉沢さんの家の前にごみを集めていたこと、この近所の人を決められた通りにきちんごみを出すが、すこし離れた人たちが勝手にごみを出したり、夜そつと置いていたりすること、時には紙の袋が破れてごみが散らばってしまうことなど口々にのべ、どうしたらよいのかわからないことも話した。

みんなの話を聞いていた杉沢のおじさんは、

「そうですか、困りましたね。でも、ごみは今までよりすこし横になりますか、私の家のへいのそばに置いていいですよ。」

「本当ですか。それは助かります。でも、たいへんですよ。」

近所の人たちは、ほつとしながらも杉沢さんに悪いなど考えた。

「だいじょうぶです。みんなのために、だれかがやらなければならぬんですから。」

さつそく、つぎの日から、杉沢さんの活躍かつやくがはじまった。

清掃車のごみを集めてくれたあと、杉沢のおばさんが、ほうきではいて水をながし、きれいにそうじをした。

ごみを集める曜日と種類、出し方の注意など、紙に書いてへいのところにはり出した。

しかし、なかにはまだ夜のうちにそつと置きにくる不心得な人が何人かいた。杉沢のおじさんが、ごみの中を調べ、すてた人がわかるとそのごみを持ってその家に行き、これからはやらないように話してきた。

和子は、そのような杉沢さん夫妻のやり方を見ながら、「みんなのために、だれかがやらなければならぬ。」という杉沢さんの言葉がわかりかけてきた。

和子も杉沢さんといっしょにごみの世話をすることにした。

朝、すこし早く起きてごみ集めの場所に行き、ごみがきちんと出されている

かを見まわり、きたないときには、ほうきできれいに  
はき、ごみが散らばらない  
ようにした。

杉沢さんの努力がみんな  
にわかつてくるにつれて、  
約束を破る人もいなくなり、  
ごみ集めの場所も見ちがえ  
るほどきれいになった。

「みんなのために」この言  
葉の大切さが、和子をはじめ  
近所の人の心にはつきり  
とわかってきた。



### 13 手のひらのかぎ

かみきたやま  
上北山村の国道一六九号線を定期バスを走らせていた山本運転手は、道ばた  
でしきりに手をふっているひとりの少年の姿すがたに、なぜかただならぬものを感じ  
てバスを止めました。

「どうした、ぼうや。」

すると、少年は、バスの窓まどにかけよって叫きけびました。

「おじさん、助けてえ。友だちが死しにそうなんだよう。」

おどろいて山本運転手がバスを降おりると、少年は泣きじゃくりながら道の下  
のほうを指さしました。二、三メートルほど下の、つき出した大きな岩の上に、  
ひとりの少年が死んだようにうつぶせになっています。そばには自転車じてんしゃがころ  
がっていました。

## 12 みんなのために

4-④ 働くことの意義を理解するとともに、社会に奉仕する喜びを知って、公共のために役立つように努める。(勤労・社会奉仕)

### 1 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

日本人は、公德心が大変うすいと言われる。ごみを勝手に捨てたりするのは、その典型的な例である。住みよい社会を築いていくためには、一人一人が社会のルールを守り、「自分さえよければよい」という自己中心的な考えを乗り越えていく必要がある。そこで子どもたちには、自分たちの手で協力して自分たちの学校や地域を美しくしようとする自覚をもたせ、身の回りの小さなことから実践していこうとする気持ちへ発展させていきたいと考える。

こうした社会的連帯感を身につけさせ、公共のために進んで働くことのできる子どもの育成をめざしたい。

〈子どもの実態について〉

高学年になると、委員会活動や地域での清掃活動など、社会的な奉仕活動に取り組む機会が増えてくる。また、ごみ問題については話題になることも多く、関心をもつ子どもも多いと思われる。そこで、自分さえよければという考えでは

なく、だれかがやらなくてはという社会生活をよりよく営んでいく上での奉仕精神について考えさせ、実践できる力を養っていききたい。

〈資料について〉


きまりを守らず自分の都合ばかり考える人々のために、汚れ放題になっているごみ置き場が、杉沢さん夫妻の努力によってきれいな所に変わっていくという内容である。「みんなのために、だれかがやらなくては。」という杉沢さんの行動を、和子という女の子を通して見つめさせる。そして、きまりを守るとともに、公共のために一人一人が努力し、社会生活をよりよくしなければならぬこと、社会のために進んで働くことの大切さについて考えさせたい。

### 2 ねらい

社会に役立つ喜びを知って、公共のために進んで働こうとする態度を養う。

### □ 板書

<p>みんなのために</p> <p>近所の人たち</p> <p>○自分勝手 ○ごみをかたづけな い。</p> <p>○自分の家の所に置き たくない。</p> <p>○まわりの人のことを 考えていない。</p>	<p>杉沢さん</p> <p>○だれかがやらなくては、先頭にたたなくては。 ○少しでも町を美しくしたい。 ○きまりを守り、決められた時にすててほしい。</p>	<p>みんなのために</p> <p>○まわりのことを考えて 進んで働こう</p>
--	---	--



### 3 展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 家の近くのごみ置き場を見て感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家の近くのごみ置き場を見て、何か感じたことはありませんか。</li> </ul> <p>(2) 資料「みんなのために」を読んで、杉沢さんや近所の人たちの考えや行動について話し合う。</p> <p>① どんな感想をもちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなが、自分たちのごみのあとしまつを杉沢さんにまかせておいたのはよくない。</li> <li>・ 杉沢さんと和子さんは、みんながいやがるごみのしまつを進んでしているのですばらしい。</li> </ul> <p>② ごみ集めの場所が汚れてしまうのは、みんながどんな考えでいたからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分一人ぐらいならかまわないだろう。</li> <li>・ 自分の家の前は汚したくない。</li> <li>・ 自分が汚したのではないから、そのまましておこう。</li> </ul> <p>③ 「困った、困った。」という近所の人たちは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このままでは、いつまでたっても町は美しくならない。</li> <li>・ だれかがやらなくてはいけないと考えた。</li> </ul> <p>④ 「みんなのために、だれかがやらなくては。」という杉沢さんといっしょにそうじを始めた和子さんの気持ちについて考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなのために、先頭に立つ人がいなければならない。</li> <li>・ 一人一人が協力し、進んで働くことが大切だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ収集場所に目を向けさせ、資料への導入を図る。</li> <li>・ 杉沢さんや近所の人たちに対して自由に感想を述べ合う中で、共通の問題意識がもてるようにする。</li> <li>・ 公共の場所を大切に、美しくするという意識が低いことに気付くようにする。</li> <li>・ 夏になればおいが出るので、ごみが家のそばに散らばったらだれでもいやになるだろうという気持ちに共感できるようにする。</li> <li>・ ごみ集めの場所のそうじを進んで引き受けた杉沢さんのすばらしさに心打たれ、いっしょにそうじをするようになった和子の心の変容が捉えられるようにする。</li> <li>・ 公共の場所や物は、みんなのことを考えて大切に使うこと、また、進んで公共のために働くことの大切さを理解できるようにする。</li> <li>・ 実践への意欲がもてるようにする。</li> </ul>
<p>(3) 自分たちの生活について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分から進んで、自分たちの身の回りを美しくしようとする気持ちをもって行動できたことはありませんか。</li> <li>・ 友達といっしょに、学校に落ちていたごみを進んで拾うことができた。</li> <li>・ トイレが汚れていたのに、そうじ当番ではないけどそうじをした。</li> </ul>	
<p>(4) 本時のまとめをする。</p>	